



1-1 ステップ1：社会課題の抽出

～社会変革の始めは「何を直したいか」から～

キーワード ・社会課題 ・グループワーク

●このテーマで目指すゴール

- ・社会課題とは何かを知る
- ・社会課題を特定するグループワークができるようになる
- ・自分たちの活動における社会課題を特定できるようになる

患者さんからの質問

みんなで優先的に取り組む活動を決めたいとミーティングを開催しましたが、みんなやりたいことがばらばらで、一つに絞り込めません。

●社会課題とは何か

みんなで取り組む活動を決めるには、まず、対象とする社会課題（イシュー）を決めることが必要です。これをはっきりしておかないと、活動の目的も内容も取り組み方もすべて、ぶれてしまうことになりかねません。

社会課題とは、みなさん（個人、組織、チーム）が「解決したいと願う社会の問題（不完全さ、改善すべき点）」のことです。例えば、あなたが取り組んでいる疾病に関して、「助かるはずの命が助からない」「受ける必要のない苦痛を受けている」「無くてもよい悩みを抱かしている」など、現に問題を感じており、ぜひ解決したいと思っていることがあるでしょう。それが、みなさんの活動における社会課題です。

●みんなの課題であると、説明できるように

個人やグループの経験や感じている問題点を、他の人からも社会の課題である捉えてもらうには、

- ・具体的に困っている人、害を受けた人を示せること
- ・特定の人の方考え方や個人的な捉え方ではなく、社会的に正すべき問題と考えられること
- ・課題や打つべき対策として名前が付けられていること

——などがあることが重要です。

実際に害を受けた人がカミングアウト（人前に出て話すこと）して訴えることは、アドボカシー活動で効果的です。個人や特定の人々の課題ではなく、解決することが社会的な正義であり、大義があると思われることが重要です。また、個人の責任や努力に帰すべきことではなく、社会として取り組むべき課題であるとの位置付けも必要です。そのために

は、だれにでもある程度は起こり得る一般的なことである、と示すことが効果的である場合もあります。この害を受けている人がたくさんいることを、データや推計などで語れると、理由の補強になります（本書 1-2「ステップ 2：情報の収集と分析」参照）。あるいは、対象者が少数でも社会で許容できない程度の大きな不正があると、訴求する場合もあるでしょう。

さらに、あなたや家族や仲間が遭遇したり相談を受けたりした生の問題を、活動・施策・対策の言葉に“翻訳する”ことが大切です。課題に対する解決策を推測し、どのような対策が必要か、名付けておくと便利です。そのためには、ある程度、原因を推定し、原因を無くすための対策を想定することが必要となります。

例えば、思う医療が受けられなかったという人がいたとしましょう。それは、「専門的医療従事者の育成」、「医療従事者の配置」、「医療機関の役割分担」、「医療機関に関する情報提供」など、いずれが原因で、どこを直せば再発が防げるのでしょうか。人がいないのが原因であれば「専門家の育成」が、医療機関の連携が要因となっているならば「医療機関の連携の改善」が、求められる対策となるでしょう。このように、ステップ 2（情報の収集・分析）によって得られたこと次第で、課題に対する解決策が異なってくる場合もあります。

●取り上げる課題の絞り込み

みんなで取り組む課題を決める際に、難しいことの一つが絞り込みです。課題はひとつだけでなく、5つも10も見つかるかもしれません。改善したいこと、取り組みたいことは山ほど湧き出てくることもあるでしょう。一方で、たくさんすることに同時に取り組むだけの資源（本書 1-5「ステップ 5：必要資源の確保」参照）が備わっていない場合もあります。そんなときは、絞り込みが大切になります。そこで、例えば、次の2段階の作業で、絞り込みができるようになっておきましょう。以下に、必要な観点の例を示します。

1. 効果：対策がもたらすであろう効果の大きさ
 - ・対象となる患者等の数
 - ・課題が軽減される程度
 - ・実現可能性
2. 適正：自分たちの組織やプロジェクトが取り組むべき活動であるか
 - ・アドボケートが取り組むべきことか
 - ・ミッションに合致しているか
 - ・自分たちの取り組みにより実現可能性や成果が高められるか

次に、この作業のためのワークシートを示しました。実際にやってみるにより、まず、活動候補を絞りましょう。必ずしも、一つに限ることはありませんが、ステップ 5 で見る資源は有限ですので、実行が可能であると思われる範囲にとどめる必要があるでしょう。

<図1> 取り組む社会課題の抽出（グループワーク例）

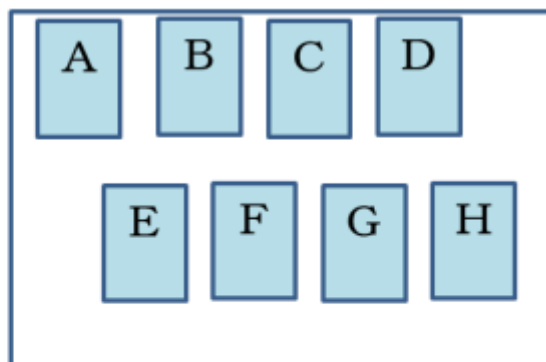
【作業手順（例）】

まず、模造紙、A4紙、付せん紙を用意します。

●プロセス1

取り組むべき課題の候補をいくつかあげます（10個以内が作業しやすいでしょう）

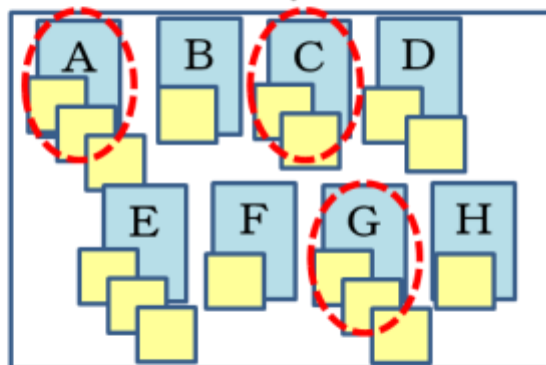
〔A4紙に記入します〕



●プロセス2

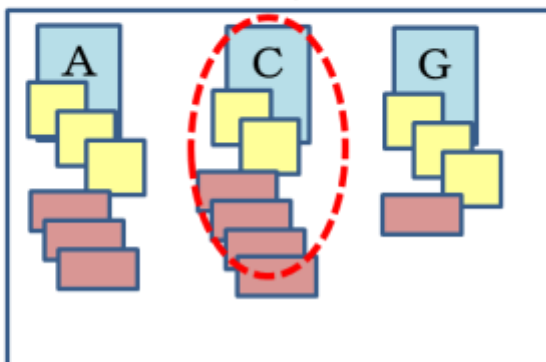
「成果が大きい」という観点から優先度が高いものを数件選びます

〔まず、付せん紙に理由を書いて貼ることで意見を出しきってから、議論します〕



●プロセス3 「アドボカシー向き」という観点から1つを選びます

〔プロセス2と同様〕



◇ さらに詳しく知りたい方のために

・Midwest Academy、Organizing for Social Change

・国際 HIV/AIDS 連合（International HIV/AIDS Alliance）、Advocacy in Action（行動するアドボカシー）

<http://www.aidsalliance.org/publicationsdetails.aspx?id=142>（2013/10/30 アクセス）